

# 令和5年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立本所中学校
校長名	松井 隆

## 1 本校の学力に関する状況

### (1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> <li>国語、数学、英語の3教科では、全学年平均正答数が目標値を上回っている。</li> <li>1学年においては国語、社会、数学、英語の4教科の正答数において目標値を上回っている。</li> <li>2学年においては5教科の正答数について目標値を上回っている。</li> <li>3学年においては国語、数学、英語の3教科の正答数において目標値を上回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1学年において理科、3学年において社会、理科の平均正答率が目標値を下回っている。</li> <li>1学年国語の主体的に～の観点について目標値を-2.1%、理科について知識・理解が目標値に対し-1.5%、主体的に～が-2.4%と下回っている。</li> <li>2学年は全教科良い結果を出しているが、理科3観点のうち知識・技能について-1.6%、主体的に～が-5.6%と大きく下回っている。</li> <li>3学年は社会において思考・判断・表現が-3.9%、主体的に～が-4.4%。理科について知識・技能が-1.4%、思考・判断・表現が-1.1%とわずかながら下回っている。</li> </ul>

### (2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> <li>全学年共通して肯定率の高いのは「キーボードの入力」と「タブレットやPCは自学生活に役立つ」であった。必要性和基本操作は身に付いていると考えられる。また、「困ったときに相談できる相手がいる」の数値が高かった。</li> <li>1学年においてはタブレットの有用性について理解した上でかつルールを守って使用することができている。また交友関係も良好で、「自分のことを理解・必要とされている」ことで温かみのある中で生活を送ることができている。</li> <li>3年生はタブレットの有用性を理解しつつも一部ではそうしたメリットを実感できていないところも感じられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全学年通して「タブレットやPCで嫌な思い・怖い思いをした」について低い回答が得られた。社会に出て初めて経験しないように学びの場が必要であると感じた。</li> <li>1学年は学習に対し難問に挑むことが不得手な生徒が多い。興味をもたせ自己肯定感を高めたい。</li> <li>2学年の生活面は多くの質問に対しばらつきが多く様々なケースの生徒がおりばらつきが多い印象。2学年は学習に関して肯定率が低く、自信をもてていないと考えられる。</li> <li>全学年通して授業者サイドでアイデアあふれる授業を計画・実践し興味関心を高めたい。</li> </ul>

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"><li>本校で実践している朝学習において、自然な形で一日の流れに定着している。</li><li>基礎確認テストにおいて、3年間の中でテストの形態に慣れて受験期を迎えることができる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>問題を解くことについての経験は十分にこなせているが、わからない問題についてのケアが十分でないと感じる。</li></ul>

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 主体的・対話的で深い学びの実践

生徒が主体的かつ意欲的に学習活動に取り組むことができるような課題を提示し、生徒が感動する授業展開を目指すことで、学習へのモチベーションを高める工夫をしている。さらに、学習内容に関するグループワーク等の生き生きとした言語活動により、生徒同士の協働や教職員との対話を増やし、コミュニケーション能力を効果的に向上させている。また、これらの取組により自己の考えを広げるようにするとともに、学習過程での気づきや疑問を授業内で共有し、深化させることで、深い学びへ結び付けられるような場面の設定を行っている。

(2) 個別最適化学習と協働学習の推進

個別最適化学習や協働的な学習を効果的に取り入れるなど、「指導の個別化」や「学習の個性化」といった授業改革を更に進めている。具体的には、一人一台端末のソフトを利活用し、生徒の能力や興味・関心に応じて主体的に学習する方法を選択したり、AI型教材を活用して生徒一人一人の学習の進捗や理解度に合わせて学習内容を調整したり、その生徒に合った学ぶ機会を広く提供することで学習内容の定着を図っている。また、ロイロノート等を活用し、調べ学習、意見交換や発表活動等の協働的な学習の場면을意図的に設定するようにしている。

(3) コーチングによる学習展開

コーチングの三原則「インタラクティブ(双方向性)」「オンボーイング(現在進行形)」「テーラード(個別対応)」を核として、各教科の特性を踏まえた授業の展開を年に3回程度盛り込んでいく。これによりこれまでの詰め込み型の授業から、各自がテーマに沿った自発的な学びが展開され、これからの時代に必要な変化に対応できる素地を生徒個々の中に培わせる。各授業者の工夫と計画、そして授業の組み立てにより、生徒に「新しい気づき」をもたらし、「視点」を増やし、「考え方や行動の選択肢」を増やし、「目標達成に必要な行動」を促進する。

#### (4) 朝学習

月曜日～金曜日まで、朝 8:25～8:35 の時間帯を用いて主に 5 教科の学習に取り組んでいる。この活動を行うことで、一日を良い形でスタートでき、6 時間の授業を脳が覚醒した状態で授業を受けることができる。脳が効率よく働く時間帯であることからやる気や集中力が高まり、効率よく勉強に取り組むことができる。また、既習内容について取り組むので、振り返りにもなり、全生徒が実質的に復習をしていることになる。

#### (5) 基礎確認テストの全学年実施

一般的には 3 学年の受験期に実施することの多い模試を、全学年で基礎確認テストを実施している。生徒は定期的に自分自身の実力を学内に限定せず、計ることができる。また、自身に足りない箇所について見つめ直すことができることから、次の一手としてデータから自ら手当てをし、補う学習につなげることができる。集団でのテストに緊張せず受験できるようになり、同じ形式のテストにおいて実力を発揮することができる。

### 3 「令和 5 年度 墨田区学習状況調査」における目標

#### (1) 目標

- ・ 令和 6 年度の墨田区学習状況調査において、全教科の平均正答率が目標値を上回るようにする。
- ・ 令和 6 年度の墨田区学習状況調査の i-check において、生活・学習習慣に関するすべての質問項目で、全国値と同等程度もしくはそれを上回るようにする。
- ・ 令和 6 年度の墨田区学習状況調査の観点別正答率において思考・判断・表現の正答率が、全教科で目標値を上回るようにする。